

練習場の鉄塔管理について

練習場の経営環境は変化しており、安全に対する経営者責任がより求められています。千葉県市原市の練習場鉄塔の倒壊は記憶に新しいものです。地震には強い鉄塔ですが風、雪には大きな注意を払う必要があります。管理ポイントは①気象情報を入念にチェック、過信せず事前に対処。②管理風速を遵守し、ネット自動降下装置を切断しない。管理風速は鋼管ポール構造20㍎、トラス構造18㍎、旧来型15㍎を遵守し、ネットを降ろしましょう。③1970年代以前の旧来型基礎構造や固定式ネット採用の施設は、基礎ボルトの点検を強化するとともに軽量ネットを採用、ネット降下が可能になるよう改造しましょう。それでも強度的には劣るので、早急に近代的工法の鉄塔に切り替えることをおすすめします。④「誘導雷」対策での電源を落とす際は、ネット降下後にしましょう。⑤平常時、常にウインチの稼動状態、ワイヤーの劣化、サビの状態をチェックします。⑥台風後は鉄柱周りの点検、ネットのほつれや切れが無いかをチェック。⑦ボール飛び出しなどで、かさ上げするケースもあるが強度的に無理があり、本体の建て替えか、外側に防止鉄塔を配置することをおすすめします。⑧地形的に強風、ダウンバーストなどが懸念される場合は、防球ネット柱の構造体、スパン間隔、ネット線径、基礎を強化。